

令和3年度 施設評価表

認定こども園般若野保育園

1.本園の理念、教育・保育目標

◎子ども1人1人を大切に、保護者から信頼され地域に愛される教育・保育をめざす ○未来を担う子どもたちの豊かな人間性を育てる ・心身ともに健康な子どもを育てる ・思いやりのある子どもを育てる ・自分で考え行動する子どもを育てる
--

2.本年度に取り組む重点事項

◎職員一人ひとりが目標を持ち(教育・保育の中で大切にしている視点)、教育・保育に取り組む ◎職員のチームワークづくり(迅速かつ細かな報告・連絡・相談、チームごとの連携)

3.評価項目の達成及び取り組み内容と評価

評価項目	取組内容	取組状況	評価	来年度に向けての課題
教育・保育課程	教育・保育課程の編成・実施に関して職員間の共通理解をはかる。	職員会議等で教育・保育課程の確認をしている。	B	内容の理解を引き続き深めていく。
発達過程に応じた教育・保育	未満児クラス・以上児クラスの運営の成果と課題を報告する。	毎月、運営成果と課題を報告し合い、運営の改善を目指した。	B	各年齢の発達特徴や発達過程を理解し、個人差を踏まえてすすめていく。
研修体制	教育・保育の質向上のために、園内研修を実施し、園外研修にも積極的に参加する。	園目標の1つである「自分で考え行動する子どもを育てる」を達成するために人的環境の見直し、職員相互の理解を深めた。 また、園外研修(対面及びZOOM研修)に参加し教育・保育の質を高める努力をした。	A	経験年数・役職に応じた研修を引き続き受講し、研鑽を重ねていく。 ZOOMを使用した研修では、多くの職員が研修できるようにする。 対面研修にも積極的に参加する。
特別支援教育	特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。専門機関との密な連携を図る。家庭との連携を図る。	連携機関の巡回や外部講師を招いて、該当児の発達支援について学んだ。 該当児の対応については、連携機関・家庭・園との協働により個別の配慮ができるようにした。	A	個人対応はよくできているが、集団への参加方法を模索していく。
小学校接続	小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。幼保小連携研修に参加する。	コロナ禍のため、子どもたち同士の交流はできなかったが、園と小学校との情報交換は行った。	B	コロナ禍の中で、どのような交流が可能か地区の学校・保育園で話し合い、連携を深めていく。
健康・安全管理	職員の健康・安全管理の意識を強化する。コロナ禍における衛生安全のための知識や細めな消毒を日々怠らなく行う。食育計画の作成と実践を行う。	職員間で連携しながら、衛生管理の徹底を心がけた。感染症に関しては早期対応を行い、即情報を開示し、保護者に伝えた。食育計画に基づき進めている。	B	保護者にも意識を持ってもらえるよう情報発信の工夫をする。 安心安全な食の提供を行うための知識を学び、子どもたちの食育につなげる。
職員間の連携	担任外保育教諭間の連携、他種職員との連携を積極的に行う。	行事や日々の教育・保育を通して協働体制を取っている。職員会議等でも話し合いを通して意思疎通を図っている。	C	一部分はできているが、全体の意思疎通、情報伝達としては不十分などある。 連携の仕方、伝え方の見直しを行い、迅速な報告・連絡・相談を行う。
保護者との連携	個人懇談や送迎時での口頭伝達、日々の連絡帳を通してコミュニケーションを図る。行事や日々の子どもの活動の様子を写真などで伝える。	個人懇談や送迎時での口頭伝達等で悩みを聞き、共有しながら子どもの成長に繋がるよう努力をしている。 ドキュメンテーション等を玄関に掲示し、教育・保育の取り組みを知らせている。	B	コロナ禍において規制された状況での保護者とのコミュニケーションの取り方を工夫していく。
地域との連携	地域にある老人ホームや障害者支援施設との交流を図る。 未就園児対象のふれあいひろばを行う。 HIP・はがきなどを利用して、行事の案内など園の情報発信を行う。	利用者との直接交流は無かったが、作品交流という新たな交流を行った。 園に遊びに来てもらい、担当職員と一緒に遊んだり、子育ての悩みを聞いたりしている。 毎月HP更新を行い情報開示している。	B	コロナ禍において安全な交流の仕方を考え、実践していく。 過疎化がすすんできているため、地区外への情報発信について考えていく。

A:優れている

B:普通

C:やや努力が必要

D:努力が必要